

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2790800136		
法人名	社会福祉法人 浪速松楓会		
事業所名	グループホームサボテンの花		
所在地	大阪市東住吉区西今川4-22-11		
自己評価作成日	平成 29年 1月 15日	評価結果市町村受理日	平成 29年 3月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2790800136-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 29年 2月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

夕食後に入浴希望者は出来る限り実施させて頂き、全利用者様週3回の入浴に取り組んでいる。屋上菜園にて利用者に出来た野菜の収穫をさせて頂き、職員と共に調理している。外出行事にも力を入れており、気候の良い日は近隣のスーパー等に外出し、おやつや買い出しを実施したり、希望があれば誕生日の当日に職員と共に外食する機会も設けている。季節に応じた行事(春は遠足、夏は夏祭り、秋は敬老会、冬はクリスマス会等必ず月1回何かしらの行事を行い、四季を感じて頂く様に対応している。利用者様の異常の早期発見に努めており、些細な状態変化があれば、直ぐに看護師やかかりつけ医に報告している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人を母体として開設した5年目の2ユニット18名のグループホームです。地下鉄の出入口に近い交通の便の良い都心の一角にあります。4階建ての建物には、1階に小規模多機能型居宅介護事業所があり、2・3階が住居となっています。4階屋上には広いテラスと家庭菜園が設えてあり開放的な空間もあります。ホーム周辺は車も多く行き交っていますが、住宅や公園、神社、商店もあり、利用者は職員と散歩や買い物、外食にと出かけています。「利用者がその人らしい生き方、暮らし方ができて、利用者の心に花が咲くように温かい心を持ち続けて利用者を支援します」を法人理念としています。管理者・職員はその理念のもと「利用者一人ひとりに合った介護」で自然に見守り家庭的な雰囲気や大切にされた支援を行っています。管理者は会議で出た職員の意見、参加できなかった職員の意見(書面にて聞き取り)を、支援に反映するよう努め職員の意欲を高めています。今後に更に期待できるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【利用者がその人らしい生き方、暮らし方が出来て、利用者の心に花が咲くように温かい心を持ち続けて利用者を支援します。】を事業所理念として明記している。職員は、地域密着型サービスの意義を踏まえて理念を具体化し、【利用者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることを支えます。】とパンフレット等に表記して、地域との連携づくりに取り組んでいる	施設長や職員は、理念をホームの運営、サービスの実践上重要なものと認識しています。法人理念の基に「利用者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることを支えます。」をホーム理念としてパンフレット等に明記しています。法人理念は玄関入口や各ユニットに掲示しています。ミーティングや研修時に理念の確認を行う等、職員間で共有してサービスの実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町会に加入し、中井神社の夏祭り、初詣など、地域行事には出来るだけ積極的に参加できる様に努めている	ホームは町内会に加入しています。利用者と職員は、地域の夏祭りや餅つきに参加したり初詣に出かける等しています。日々の散歩時に近隣住民との挨拶を交わす機会もあります。地域のボランティアによる合唱、紙芝居、ハーモニカ演奏等、利用者は地域の方との交流を楽しみにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症の理解や支援について運営推進委員会の委員や地域包括支援センター職員を通じ地域の人たちに伝え、認知症の人に対する方法を知って頂ける様努めている</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>偶数月の第4土曜日に定期開催(2か月に1回は書面のやり取りで実施。)しており、参加者は、利用者、家族、町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、グループホームについての知見者を選定している。会議では、職員が利用者の状況や行事、事故(対策)、苑内研修、人事異動、事業所の取組み等報告を行い、運営の問題点や良かった点等も報告している。また、感染症対策や地域交流等についても議題にし、委員からの意見や助言をして頂いており、出された助言等は、事業運営に活かしている</p>	<p>運営推進会議は大阪市の方針のもと(2回に1回は書面でのやり取り)によって実施し、議事録を作成しています。会議は、利用者、家族、町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者、職員等の構成となっています。ホームの運営状況、行事、活動報告、事故報告、研修報告等議題にしています。施設長は丁寧に説明を行い、参加者からの色々な情報を取り入れ、運営に活かそうと積極的に取り組んでいます。運営推進会議録は家族に送付をしています。また、広報誌「サボテンの花だより」に開催日のお知らせをして参加しやすいような工夫をしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者には、諸問題を話し、相談に乗ってもらっている。大阪市福祉局高齢者施策部高齢施設課には、施設運営上の疑問点等があると問い合わせにてご指導頂いている	市の担当課とはいつでも相談できる関係にあります。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議において報告・相談をして、情報提供や助言を得ています。転倒や医療機関で縫合などの処置をした場合は、大阪市の取り扱いに従って即報告をして連絡を密にしています。	
6	5	〇身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規定に身体拘束を行わない方針を明記し、職員に方針を徹底しており、職員は(身体拘束を行わない方針)を相互に確認し合い、利用者の安全を守りながら自由な暮らしができるよう取り組んでいる。ユニット玄関、各階のエレベーター、居室のベランダの出口等については、安全確保の為に施錠している現状であり、開錠に向けて運営推進会議にて都度検討実施しているが、開錠する事によるリスクを懸念する意見が多い為開錠には至っていない	職員は研修やフロア会議で身体拘束廃止について学びながら、身体拘束を行わないケアを実践しています。ホームでは玄関ドア(外からは自由に、内側は押して開く自動ドア)は開放していますが、ユニット非常口ドアとエレベーターは施錠しています。施錠については運営推進会議で検討を重ねていますが、建物の構造上、防犯上の課題について今後も時間をかけて検討していくこととなっています。しかし外出希望のある利用者については、職員は見守りと付き添いで対応しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にあってはならない事を職員一同が信念を持って取り組むよう心掛けている。また都度ミーティングのなかでも体制の整備や虐待防止のための関連法について研修する努力を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の研修に参加を促し、大阪市高齢者相談支援サポート事業について周知する様に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結については、重要事項説明書を読み、説明を行い、その内容を十分理解して同意頂いた上で契約の締結をしている。なお、契約に関する疑問点等があれば、納得して頂く様十分説明をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月1回担当職員が日々の様子を写真付きの書面に記入し、家族に送付している。家族が来られたら管理者や職員は出来る限り面談し、利用者の近況を報告し、家族からの要望があれば十分に聞き取り、対応可能な内容であれば実現している</p>	<p>家族が面会に来ると、利用者の日頃の様子を伝えています。玄関入口に面会簿を用意しており、備考欄に意見を書けるようにしています。家族は意見や要望があれば面会時に直接職員に伝えられる関係にあります。また、利用者・家族は運営推進会議に参加をして意見や要望を出しています。家族には、毎月ホームの広報誌「サボテンの花だより」と、担当職員が利用者の写真を添えて手書きで日頃の様子を知らせる一人ひとりの「個別だより」を送付する等して意見を表出しやすい工夫をしています。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者出勤時は出来る限りフロアに行き、職員に都度声を掛け、現場の状況や意見を聞くように心掛けている。リーダーや計画作成担当者とは毎月話し合いの機会を設けており、運営に関する意見交換を行う事で、施設運営に反映している</p>	<p>管理者は、職員の意見や提案はホーム運営に大切と考えています。職員は、各ユニットのフロア会議等で意見交換や提案をしてサービス向上に活かしています。会議に参加できない職員は書面で意見を出しています。職員の提案で「利用者の役割を大切にした支援」が実現しました。管理者は年2回の個人面談の機会にも直接意見や要望を聞いています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、リーダーや管理者から提出された人事考課を公平に分析し、経験、実績を加味して給与、賞与に反映している。職員の労働意欲を削ぐ事が無い様、向上心をもって働ける環境づくりに心掛けている。年2回の賞与とは別に目標達成度賞与があり、職員自ら立てた前年度の目標が1年間を通して達成出来ると、6月度に1回賞与が与えられる</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内研修は年間計画表に基づいて行われ、参加者には研修報告書を提出する事で手当が支給される。参加出来なかった職員には、当日の資料及び研修報告書を回覧し情報共有に努めている。代表者は年2回の人事考課の内容から職員の能力を把握行い、管理者が職員のスキル等を考案し、適宜外部研修への参加を促している</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>東住吉区のグループホーム連絡会に入会し、参加職員が情報交換を実施しており、他施設への見学会や、取り組み等について学んだ事を現場職員に伝える事で、サービスの質の向上に努めている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前には本人のアセスメントを行い、本人、家族の困っている事、不安要望を聞きとり、本人、家族が何でも話せる様な関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族が在宅介護にて困っている事、不安な事、要望等を十分傾聴し、必要に応じて情報を提供している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人の意向、家族の要望等を勘案して、基本的には在宅生活の継続を勧めているが、在宅生活の継続が困難であればグループホームに入所すべきかどうか十分に検討し、利用する事を提案させて頂いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活習慣や価値観を尊重し、寄り添う介護を心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が望む生活を安心して送る事が出来る様家族の協力も得て関係を築く様にしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が住み慣れた地域との繋がりを大切にし、途切れる事が無い様、駒川中野商店街へ買い物に行ったりしている。中井神社には夏祭りや初詣に参加し地域との交流に努めている	利用者は、入居前に利用していた近隣にある馴染みの店や医療機関に出かけています。家族と自宅に外泊をしたり、近隣商店街に食事に出かける利用者もいます。携帯電話を持参している利用者もいます。職員は、はがきや年賀状の代行をしたりして馴染みの方や場所との関係が途切れることがないような支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員と一緒に会話に加わり、人間関係が円滑になる様、レクリエーション等を通して利用者同士が必然的に会話をする様な機会を設けている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用契約が終了しても、ご相談等の連絡があれば都度対応しており、状況に応じて、転居先を面会に伺う事もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成前には必ず本人、家族の意向を聞いており、日常生活の中で本人とのコミュニケーションを密に行う事で意向を把握する様にしている	計画作成担当者は、利用者家族から入居時に一人ひとりの思い、意向を把握し介護計画に活かしています。入居後は、「申し送りノート」や「介護日誌記録」を毎日丁寧に記録することで、利用者一人ひとりの思いを汲み取るようにしています。記録類は利用者と職員の会話の内容や表情が読み取れるような内容となっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 本人、家族からの情報提供を基に、本人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報提供を基に、本人とのコミュニケーションを通してより詳しい生活歴、趣味、嗜好等の把握に日々努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後1か月は本人の状態を把握するためにも記録をより密に収集している。そうする事で、本人のADLや様子を把握し、個別介護が出来る様努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	24時間シートを作成し、ケアの統一を図っている	介護計画は6カ月毎に見直しています。モニタリングは毎月行っています。モニタリングチェック表、介護記録を丁寧を作成することで利用者の思いや要望を汲み取っています。前回課題であった「記録しやすい様式にすることや職員への徹底策」を検討した結果、平成28年度から担当者が24時間シートを活用した「個別介護計画書」を作成し、それに沿って計画作成担当者がモニタリングを行うようになり、現在取り組んでいる最中です。変化のあった時、必要時には都度計画の見直しを行っています。	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	気づきがあれば介護支援専門員に都度報告している。些細な状態変化があれば詳細を記録する様徹底している。毎月記録を基に月間モニタリングを実施しており、見直しを実施している		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	利用を希望された家族にも法人内での対応出来るサービス及び在宅生活での継続についての他の介護保険上のサービス利用も都度説明している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	東住吉区の地域包括支援センターを把握しており、本人にとって必要な事があれば直ぐに地域資源を発掘出来る環境にしてある		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用時には本人、家族の要望を確認し、希望される医療機関で適切な医療を受けられる様支援している。利用者、家族の希望があれば、提携医療機関の訪問診療を受ける事が出来る旨説明している。その際には、かかりつけ医師から診療情報提供書を受けとり、治療方針の継続を図っている	利用者がかかりつけ医師や家族の希望する医療機関に受診できるよう支援しています。利用者は家族の協力により、入居前からのかかりつけ医療機関へ受診することもできます。協力医は、月2回の定期往診をしています。訪問看護師が事業所へ来訪し、利用者の日々の健康管理を行っています。また、併設する小規模多機能型居宅介護事業所の看護師の指導もあり、利用者の健康状態についての連絡や相談をしています。夜間や緊急時にも連絡可能な24時間オンコール体制をとっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>提携医療機関の看護師が1週間に1度定期訪問し、日常の健康管理を行っている。日々の生活の中で異常や問題に気づいた場合、24時間、看護師と連絡が取れるオンコール体制をとり、適宜訪問したり、かかりつけ医から指示を仰いだりしている。また小規模多機能型居宅介護配属の看護師により、事業所の取り組みとして同等の対応を実施している</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院が必要な場合は、担当医から症状や病状に応じた病院の紹介を受けたり、相談等が出来る体制にしている。また、入院した場合は定期的に介護支援専門員や管理者が病院に行き、本人の状態を把握に努め、早期退院に向けた情報交換を病院関係者と行っている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に重度化における指針を説明し、書面で渡している。その際要望を家族から聞いているが、実際に重度化した場合及び重度化する可能性がある場合は、必ず家族とまず事業所として対応が出来る事を説明し、方向性を話し合う事としている</p>	<p>重度化や終末期の対応については、入居時に「重度化に関する指針」「看取りに関する指針」をもとに利用者・家族に説明をして同意書を交わしています。終末期には利用者・家族から意向を聞き、状況に応じて可能な限り希望に沿った対応をしていく予定となっています。看取りについてはまだ経験はありませんが、職員は、法人内研修による看取り研修に参加しています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当や初期対応については法人内研修にて法人内の看護師より教育を受けている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災避難訓練は年2回実施する事としており、夜間、昼間想定として各1回ずつ5月、11月に定期的実施をしている。また運営推進会議にて実施報告を行い、事業所が地域で協力出来る事を報告している</p>	<p>ホームでは、防災対策マニュアル並びに火災予防マニュアルの整備、区防災マップや非常災害時における避難誘導についての文書を掲示しています。火災避難訓練は、消防署指導のもと、昼間・夜間想定として年に各1回ずつ自主訓練を実施しています。また、運営推進会議にて、火災避難訓練の実施報告や、非常災害時での地域におけるホームの役割として、一時避難場所としての受け入れや地域との協力体制についても話し合いを行っています。備蓄については、水・食料品等を保管し、期限の管理や備蓄の見直しもその都度検討しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者が誇りをもってその人らしい生活を送る様にする為に言葉遣いや対応の所作に注意している。職員の入職時には利用者に対する接遇に細心の注意を払う様指導しており、言葉遣いが悪いと気づいた場合その場で職員間同士注意出来る環境に出来るよう努めている。管理者も出来るだけフロアで仕事をし、気にかかる職員がいれば都度注意する様努めている	管理者は、利用者一人ひとりが自分らしい暮らしを続けるための日々の支援においては、職員の「対応力」が最も大切であると認識しています。職員一人ひとりの力を引き出し高めるために、日々の業務の間や個人面談等で注意深く話し合い、指導を行っています。職員は、「接遇」や「介護の本質」等の研修を通じて、自分自身に介護されたいかを常に考える等、日々自己研鑽に努めています。職員の言葉かけや接し方は丁寧で優しく、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定が出来る様な声掛けや対応を心掛けており、うまく自己表出が困難な利用者には選択肢を提示して対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員は、利用者一人一人の生活リズムを大切にし、日常生活の継続を支援している。レクリエーションや行事は、利用者自身が参加するかどうかを毎回確認している。入浴は、本人の希望に合わせて夜間浴も実施している</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>身だしなみやお洒落を継続出来る様に、化粧の持ち込み等を容認し、本人、家族の思いを尊重している</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のADLに応じて盛り付け、片付け、調理段階の味付けの確認を利用者と共に実施する事もある	ホームでは、朝と昼の食材が届き、職員や調理支援担当職員が調理しています。夕食の副食は、チルドを外注しています。炊飯と味噌汁については、ホームで作っています。利用者の希望やADL(日常生活動作)に応じて、献立の変更やミキサー食、とろみをつける等の食事を提供しています。ホーム屋上の家庭菜園の野菜収穫時には、味噌汁の具材として活用しています。昨年の敬老会では、職員の提案により、利用者の名前が入ったお箸やスプーンを贈り、利用者は使用しています。また、職員は利用者一人ひとりの力を活かし、調理の下ごしらえや配下膳、テーブルを拭く、ホワイトボードに献立を記入する等、利用者と一緒にしています。食事レクリエーションでは、寄せ鍋や恵方巻き作り、たこやきパーティーやチョコレートフォンデュ等充実しており、利用者に喜ばれています。今年からは誕生日当日に利用者の希望する場所への外食支援を行い、利用者と職員がより楽しく食事をする機会を設けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	最低1日1000cc以上は水分を摂って 頂く様提供し、本人の禁止食や嗜好に 都度対応している。誤嚥性肺炎等の予 防を図る為、嚥下状態に合った形態で の提供に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず口腔ケアを実施してお り、口腔内の清潔保持に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	利用者が自分で出来る事については 極力見守りながら、状況に合わせて支 援している。一人一人の排泄時間に合 わせ、出来る限りトイレ誘導を実施して いる	職員は、利用者一人ひとりの排泄リズム や習慣を把握・尊重し、自立に向けた 支援を行っています。排泄について は、ケース記録に記入しています。ま た、利用者の羞恥心や清潔保持に配 慮しながら、利用者一人ひとりに沿っ た声かけや見守り、時間を見てトイレ 誘導を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	設備面で、排便時には、トイレ内のパ ーを使用する事で、体を前屈し、自然 排便が容易になる様に工夫をしてい ると共に、かかりつけ医には排便状況 を報告して内服薬の調整をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や意向に出来るだけ沿って、時間帯を決めており、週3回の入浴を実施している。毎回入浴時は一人一人お湯を交換洗浄し、好みの湯加減で入浴して頂いている。入浴拒否される場合には対応する職員を変更するといった対応をし、本人の気分を損なわない様対応し、清潔が保てる様支援している	ホームでは、週3日入浴ができる環境を整えています。利用者の希望に沿って、早朝や夕方時間帯の入浴や医師の指導により足浴の支援も行っています。また、入浴を好まない利用者には、タイミングを見計らったり、声かけを工夫する等、個別に対応しています。利用者がより入浴を楽しむことができるよう、季節に応じた行事風呂を提供する予定です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムや生活習慣を大切にし、その人らしい生活を送れる様支援している。特に入床時間、起床時間については本人に合わせており、職員から臥床、離床の強要はしていない		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、本人の使用している薬や内服薬の用法や用量を理解して服薬して頂いている。また、一人一人の最新の薬情を保管しており、何か異常などがあれば直ぐに確認出来る状態にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意分野や好み等を把握し、其々に楽しみや役割を持って生活して頂ける様対応している。また、毎月最低1回は季節に応じた行事を行い、利用者からの要望の実現を図る様努力している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日のおやつは基本的に決めておらず、気候の良い際は職員と共に外出し、本人にその日のおやつを決めて頂いている。季節に応じて車で公園に外出したり、食事に出掛けたりもしている	利用者は日常的に、近隣の商店街や店へおやつの買い物を兼ねて職員と一緒に出かけたりしています。職員は地域の行事、夏祭り、初詣、花見など季節毎に外出できる機会を設けて外出支援が増えるよう取り組みを行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事務所内の金庫で預かっており、本人が希望すれば使える環境としており、必要な物品があれば、職員が付き添って買い物に出かけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	常に電話での連絡をとれる環境にある。本人から希望があれば葉書を用意し、書く事もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは4階建てで1階に総合玄関があり、エレベーターを昇って2、3階部分が居住空間となっている。食堂兼居間には畳スペースがあり、利用者が横になったり、座って外を眺めたり、多目的に使える場所となっている。ソファやテレビを置き、ゆっくりくつろぐスペースも用意している。廊下には手すり洗面台があり、トイレは各階3か所設置し、天井には脱臭装置を取り付け、室内を清浄に保つ工夫をしている。屋上には利用者が楽しめる家庭菜園を設けている	ユニットの入り口でもあるエレベーターの前には季節を感じられる飾りや観葉植物、外出時の写真等が飾られ、温かみのある空間づくりがされています。リビングは明るく、適温に保たれています。リビングや壁には利用者の手芸作品や職員と一緒に作った絵などを飾って、季節感やぬくもりを演出しています。食堂テーブルやソファコーナーでは新聞を読んだりテレビを見たり、畳コーナーでは洗濯物をたたんだり利用者はそれぞれにゆったりと過ごしています。屋上には広いテラスがあり、家庭菜園が設けられています。菜園ではイチゴや野菜などを作っており、季節の野菜で食卓が自然を感じられる工夫もしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には畳を敷いたスペースにて、座ってお茶を飲まれたり、くつろぎながらテレビを見たりされている。フロアのテーブルには利用者分の椅子を用意しており、思い思いの利用が出来る様になっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には電動ベッドとクローゼットが備え付けてあり、片麻痺がある場合にはベッドの位置を変更等し、利用者に安心して利用して頂く様配慮している	居室入口にはレクリエーションで作った折り紙の作品を飾るなど自室がわかるようになっています。ベッド、エアコン、ロッカーはホームが用意しています。入居時には、タンス、テレビ、時計、仏壇、家族の写真、人形等それぞれの思い出の物を持ち込んで、自分で好きなように配置しています。管理者は「狭い空間でも気持ちよく過ごしてほしい」と週1回のシーツ類の交換を行っており、居心地良く過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの廊下、トイレ、浴室には適切な手すりを設置して安全を図っている。苑内では車椅子を極力使用せず、職員が手引きでの歩行介助実施し、歩行生活の継続を図っている		